

昨年10月31日、「交竜の郷あえんば賞」の表彰式が行われ、皆さんに推薦いただいた中から、選考の結果、2団体、5個人が受賞されました。

竜王町は、私たちの周りで、広く地域を支える奉仕活動や社会に貢献する活動、人知れず地道で心温まる活動、他の模範となるような善行活動などを行っているこれらの人・グループに深く感謝し、町民の皆さんの心豊かな住みよいまちづくりへの参加が広がることを目指します。



「2015年 竜王町「交竜の郷あえんば賞」受賞者の皆さん」

# わがまち「竜王」を輝かせる人々

新春特集

活

## 鏡龍神会 さん

かがみりゅうじんかい

【鏡】



代表:玉尾 正人(たまお・まさと)さん

鏡神社春季例大祭の前夜に宵宮祭の「太鼓引き廻し」を子ども会や青年団などと一緒に鏡地区内を巡行され、地域文化や伝統行事の継承に多大な貢献をされている。



1.「太鼓の引き廻し」  
2.祭り当日は大人も子供も一緒になって盛り上がります

源義経が元服した地として知られる鏡神社の「春季例大祭」の前夜にある「宵宮祭」では、大太鼓を清める神事後、若者たちによって町内を回る「太鼓の引き廻し」が毎年行われています。

「一時、宵宮は少子高齢化で途絶えていたんです」と話されるのは、地域の伝統行事を復活された当時を知る鏡龍神会代表の玉尾さん。「現代の子どもたちにも地域の伝統を伝えたい」との思いから、平成13年に祭りの継承に賛同する区民たちで会が立ち上げられました。その昔は青年団が大太鼓を引っ張っていたそうですが、現在は低学年の子どもたちや大人も参加し、区民の皆さんで協力して引っ張られているそう。「重さが1トン以上もある太鼓で、在所中を

15~20人で引くんです。危険がないよう見守りながらついて行くんですが、坂もあってそりゃ大変です」と楽しそうに祭りの様子を話されます。

また、毎年12月に子どもたちが鉦や太鼓を打ち鳴らしながら行列する「とがらい祭り」でも龍神会が祭りの継承を支援されており、「祭りの用意は大変ですが、当日のみんなの笑顔が何よりうれしく感じます」と玉尾さん。祭りの準備や催事を通して区民全体の連帯感や絆をより強めるきっかけにもなり、愛着の持てるまちづくりを築くことができると話されます。

これからも「続けていくことが一番大事」を信念に、地域の伝統行事や文化を守り継がれる活動を次代へとつなげていけます。

竜王町あえんぼ賞は、概ね3年以上、地道な活動を続けられ、町の発展を支えている個人、団体を対象に、各種団体の代表で構成される選考委員会により、それぞれの活動について、次の推薦分野から披表彰者を選考されています。

**学** 【がく】  
学びに関する分野

**安** 【あん】  
生活の安心・安全に関する分野

**結** 【ゆい】  
町民間や行政とのパートナーシップのもと主体的に活動することに関する分野

**美** 【び】  
まちの美しい環境に関する分野

**活** 【かつ】  
まちの活力に関する分野

**安**

藤井 昭三 さん(左)  
ふじい・しょうぞう

安井 勝 さん(右)  
やすい・まさる

【さくら団地】



平成20年から毎週火曜日の20時から団地内を「火の用心」の掛け声とともに拍子木を打ち鳴らしながら巡回され、団地内の地域安全、防犯・防災のために尽力されている。



団地内の安心・安全を見守る夜回り活動は犯罪抑止だけでなく、地域の犯罪に対する住民の不安も解消されています

過去、団地内であった火事を教訓に、平成20年から「火の用心」だったら、拍子木をたたいて、声を出して巡回してみよう」と、自主的に始められた夜回り活動が団地内の安全・安心を見守る心強い存在となっておられる藤井さんと安井さん。毎週火曜日の夜は、カーン、カーンと拍子木を打ちながら「火の用心！」と呼び掛け、団地内を巡回されているお二人の姿が住民への啓発にもつながっています。

ほぼ毎週休み無く続けられているこの活動によって、団地内の車上荒らしや不審車両などが減少し、住民からも大変喜ばれているのだとか。「私たちも健康のためにも続けています。自分たちのやっていることが、みんなにとって安心して暮らせるようになっていた

ら結構なことですよ」と藤井さんが話されると、安井さんは相づちを打たれながら「近所同士なので、時間になると声を掛け合わずとも玄関先に出ていましたので、自然に続けてこられました」と話されます。互いに長年の活動に対して感謝されながら、自分たちの住む地域は自分たちで守り、住みやすい地域にしていこうと、お二人の強い思いがさらに絆を深めておられます。

「身に余る賞を頂けて光栄です。ますます体力の続く限りがんばらなければ」と受賞の喜びを表しながらも決意をあらためられるお二人。さくら団地では、週に一度は、安心・安全を呼び掛ける声とともに拍子木の音が鳴り響きます。



## 小林 時子 さん

こばやし・ときこ



団地内などで、0歳から未就園児とそのお母さんたちに親子連れで遊びながらホッとできる居場所づくりとして「ママ友おしゃべりサロン」などの場を準備、提供されている。



毎回多くの親子が参加される「ママ友おしゃべりサロン」

「お母さんたちが本当にホッとできる場所で息抜きをし、お家で子どもたちに太陽のような笑顔で接してもらえれば最高です」と話されるのは、平成20年から団地内の未就園児とその母親たちの憩いの場「松が丘みるくきっず」の代表を務めておられる小林さん。1年に10回程度、団地内でサロンを開いたり近隣の観光農園でイチゴ狩りなどに出掛けたりして、子育て中の母親たちの息抜きの場づくりを準備、提供されています。

サロンなどでは、母親たちから子育ての悩みを聞くこともあるそうで、「悩みだけでなく、ただ話をして帰る。それだけでも日々の子育ての息抜きになり、笑顔でお家に帰れます」と、常に母親たちの心強い味方でもある小林さんは、

ご自身の子育ての経験が生かされるときもあるのだとか。

現在、お一人でお世話をされている小林さんは、準備に大忙しになることもあり、そんな時は、参加者たちが「ここやっとかよ」などとお手伝いをしてもらうこともあるそうで、「協力的なお母さんたちのおかげで長く続けてこられたと思います。みんなの笑顔が見られたら苦労も吹き飛びます」と、小林さんも母親たちに負けない太陽のような笑顔を輝かされます。

子育てが親子にとって宝物となるような時間を過ごせることを願って、今後も笑顔の子ども、笑顔のお母さんを一人でも多く増やすため、地域のお母さんたちの心に寄り添った支援を続けていかれます。



## 富家 勇 さん

ふけ・いさむ

平成22年から区内を流れる川沿いや子どもたちの通学路である国道477号の堤防沿いから墓地公園にかけて除草作業を続けておられる富家さんは、竜王清流会による善光寺川の環境美化活動にも参加され、積極的に地域の美化管理に努めておられます。また、区民が安全に通行できるよう、国道477号からの集落出入り口となる道路の雑木伐採や区内のサツキの植樹、手入れまでも行われています。

「善光寺川の景観が良くなったことで、それをなんとか守っていききたいという気持ちで始めました。地域内ですけど、皆さんが使う道は自分も使っているの、きれいにできたらと思って、やらせてもらっています」と、広範囲に

わたる活動であるにもかかわらず、こともなげに話されます。富家さんの手によってきれいになった通学路や区内の川沿いは、常に気持ちの良い景観が保たれ、子どもたちや通行者が楽しく、安全に通行できると区民からも感謝の念が絶えません。

「ご苦労さんと、声を掛けられたりすると、なおさらがんばらなくてはという気持ちになります」と、区民からの声に喜びを表しながら、「本当にできる限りでさせてもらっているの、体を資本に、これからも続けていきたいです」と、今後の活動にも身が入る思いを語られます。富家さんの、人を、地域を思う心が区民全体の環境美化意識を高め、美しいふるさとの景観が守られています。



平成22年から善光寺川沿いや子どもたちの通学路である国道477号堤防沿いの除草作業、サツキの植樹など周辺の美化管理に努められている。



子どもたちの通学路にある植え込みを手入れされる富家さん

美

## 西横関フラワー会 さん

にしよこぜきふらわーかい

【百横関】



左:猫田操子(ねこだ・みさこ)さん  
中央:大橋初重(おおはし・はつえ)さん  
右:富家千鶴(ふけ・ちづる)さん  
西横関の子どもバス停付近に花壇を作り、四季に応じた花を植栽されており、国道から竜王インターへの玄関口としての環境美化を熱心に努められている。



国道から見える花壇はドライバーや歩行者の目を楽しませています

平成13年から地区内の子どもバス停付近に花壇を作り、春はパンジーやヒメキンギョソウ、夏はマリーゴールド、冬は葉ボタンなど四季に応じた花の植栽をされているのは、「西横関フラワー会」の皆さん。もともとは子ども会の花壇でしたが、国道沿いで危険なことで困っておられたところ、話を聞いた花好きの富家さん、大橋さん、猫田さんの3人が身近な花を持ち寄って植栽活動を行ったことに始まり、会を発足されました。

「勾配のきつい斜面に花壇があるので特に夏場の水やりが大変」と話されるメンバーの皆さんですが、「こんな花を植えたらどうかとアドバイスをくれる人や花を見ていてくれる人もいます」と、

花壇が地域の人の目を楽しませていることを励みに活動されています。また、花壇裏にはごみステーションがあり、国道から投げ捨てられたたばこの吸い殻などを清掃して花壇周りやバス停付近をきれいに保たれています。「花壇にたばこの吸い殻があるのは残念なこと」と、みんなのマナーが守られることを願うメンバーの皆さん。

こつこつと花を植えられ、清掃もいとわず行われている皆さんの地道な活動は、「いつもありがとう」の声とともに住民からの厚い信頼を寄せられています。「皆さんがきれいだと見て思ってくれていると思うとまた力がわいてきます」と、3人の団結力はいっそう固く結ばれているようです。

活

## 村田 茂子 さん

むらた しげこ

【林】

「福祉のまちづくりは、そこに住んでいるみんなが力と心を合わせてつくっていくものだと思いません」と、地域住民の日常生活において互いに顔が見え、つながりのある見守りや支え合いを大切にされてきた村田さんは、子どもから高齢者まで誰もが住み慣れた地域で生き生きと暮らせるよう、区内の公民館で開かれている「高齢者ふれあいサロン」や子育てサロン「ひよこクラブ」など、地域住民の交流の場づくりを17年の長きにわたり支えてこられました。

また、外出が困難な高齢者や独居暮らしの高齢者宅を訪問し、「体調はどうですか？」などと、さり気ない声掛けで、健康状態を伺ったり話し相手になったりして、高齢者の見守りを行っておられま

す。気になる人がいるときには、民生委員や近隣住民と連携して解決を図るなど、林地区の福祉活動のまとめ役として信望も厚い村田さんは、「私もおしゃべりが好きなので、皆さんとの関わりで元気でいられるんです」と話され、皆さんとの交流が元気の源になっておられます。

長年続けてこられた活動が、地域と人を結ぶ懸け橋となり、今や林地区にとって、なくてはならない存在となっておられる村田さんは、「私も後期高齢者間近なんです。皆さんとともに福祉のまちづくりをがんばっていきます」と話され、今後も区民の皆さんと手を取り合い、福祉のつながりの輪を広げる活動を続けていかれます。



平成10年から区内の公民館で悩み事を話したり、体力づくりなどのふれあい憩いの場として交流されたりするなどの活動を長年継続してまとめ役を担い、率先して活動をされている。



1.サロンでは果樹狩りや花見など季節ごとの催しを楽しまれています 2.子育てサロンの様子